

8月自然教室だより
「平城宮跡・燕の埒入り」報告

辻本 信一

8月20日(月)、今年も平城宮跡、大極殿西隣りのヨシハラにて、恒例の「燕の埒(ねぐら)入り」観察会を実施しました。

厳しい暑さが残るこの時期、今回からは、植物観察は避け、午後6時から「燕の埒入り」の観察のみとしました。参加者は、会員のご家族を含む11名。内5名の方は、今年初めての参加とのことでした。



【大極殿西隣のヨシハラ】

燕の埒は各地に点在していますが、その中でも約2,000㎡のヨシハラを有し毎年数万羽の燕が見られる平城宮跡は、駅からも近く毎年たくさんの方が見学者が訪れる「燕の埒入り」観察の名所となっています。



【燕の埒はすぐ先に】



【空を見上げ燕待ち】

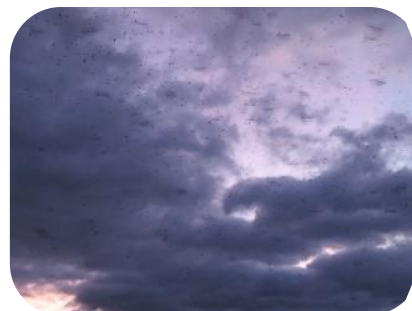
午後6時半を過ぎると、数羽の燕が徐々に姿を現わしはじめましたが、本番ピーク時の数とは大違い。はやる気持ちを抑えながら、更に待つこと15分。この頃になると、次々に群れを成して集まってきます。



【美しい夕暮れにウツトリ】

かなり上空の雲間からも次々と姿を現し、7時にはピークを迎えました。その時、誰もが発する

のが「すごい！まるでヒッチコックの『鳥』の場面を見てみたい！」の言葉。言い得て妙といったところでしょうか。

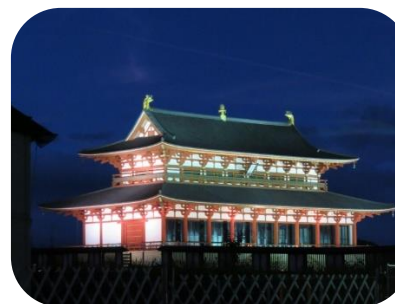


【迫り満点の燕の飛翔】

居合わせた野鳥の会の方のお話によると、ここ数年は確実に数を増やし、今年も5~6万羽は飛来しているとのこと。それと新たな情報として、近鉄線の線路を隔てた南側でも、今年はヨシの刈込みを控えたため、ヨシハラが残り、そちらにも1万羽前後の燕が埒入りしているとか。ますます規模が大きくなりうれしい気分になってしまいます。

今回参加された皆さまの感想は、一様に、「この素晴らしい自然をいつまでも残したい。大事にしたい。それにしてもこの素晴らしい光景を、ぜひ、他の人にもお見せしたい。」ということでした。この自然を守るためには、ヨシハラの保護と節度のある観察マナーが求められると感じる一日でした。

気がつけば日も沈み、あたりは暗く、大極殿のライトアップが映える時間となっておりました。



【大極殿のライトアップ】

7時20分過ぎ、燕の就寝を見届け、本日の自然観察会も無事終了、解散となりました。

自然教室チームでは、来年も引き続きこの観察会を継続し、健全な自然環境が維持されているかを見守って参りたいと思います。

まだ一度もこの燕の埒入りをご覧になったことの無い方は、ぜひ、次回の観察会にご参加ください。

